

感想文

①ディレクトフォース

私たちが東京についてまずはじめに、ディレクトフォースや笹川平和財団などの方々のお話を聞きました。初めは全員に講話をしていただいた後、班ごとに話をするという流れでした。

私が一番印象に残っているのが、班ごとの時一番最初に私たちの班に来た青木匠さんという方のお話です。青木さんは日本 IBM 取締役、日本シーベル社長、日本データクラフト社長であり、今まさに日本を引っ張っている人の一人なのだと感じました。そのような方と話すことが出来るという一生に一度とも言える機会を絶対に無駄にはしたくないと思い、私たちの班は事前調べの時から張り切っていました。聞きたいと思ったことを書き並べていだけで質問事項もすぐに埋まりました。実際に青木さんに会うと、日本を引っ張っているだけあり、貫禄があるように感じかなり緊張しました。しかし、緊張してしまって何も聞けなければ無駄になると思い、頑張る質問しようと思っていました。少し話してみると私たちが包み込むような優しさを持っている方だとわかり、緊張も少しずつほぐれていきました。以下は、青木さんが私たちに話してください、とても心に残った言葉です。

「学生は準備期間だ。大人になると、社会で何が起きているのかを知っておく必要がある。学生時代のうちにその基礎を築き上げなければならない。そのために①グローバルリゼーション、②テクノロジー（ICT）、③少子高齢化について、常に観察をしておきなさい。

実際に準備期間である高校時代にしておくべき事は、3つ。一つ目は、夢中になることを探すこと。そして、それに向かって一生懸命にすること。そうすることで自分の長所も短所も知ることが出来るし、それを達成した時に感動を覚えることが出来る。

二つ目は、五感に感じる体験をしなさい。テレビなんかではダメだ。人生にスイッチのオンオフなんてないし、リプレイなんてものもない。それに慣れてしまっていては人生に直視できなくなってしまう。

三つ目は、常に原因を探ること。なぜそうなってしまったのか？、なぜそのようなことが起こるのか？このような『なぜ』が私たちの想像力を大きくする。」ここで私は、一つ目の事でもし失敗してしまったらどうするのか？と質問した。すると、「失敗したっていい。失敗を恐れちゃダメだ。試す、そして失敗する。その時に、なぜ失敗したのか？それを分析しなければならない。同じ石に二度つまづくな。これが大事。確かに、失敗するのは辛いかもしれない。だけど、その辛さを乗り越えられなければ成功はないと思え。」という言葉をいただいた。私は青木さんの言葉を聞いて、まさに今自分に足りないところだと感じた。今私には夢がない。夢がないからなにをすればいいのかわからずただ右往左往しているだけなのだ。今の自分に必要な事は、夢中になれるなにかを探ることである。これから様々な体験をし、自分に足りないものが何かを見つけていきたい。

このような体験をさせていただいた方々に本当に感謝したい。(20文字×70行=1400字)

②企業大学訪問

私はこの企業大学訪問を通して多くのことを知り、将来に向けて何をしなければならないのかを見つけることができました。

私は自然科学系研究に大きな興味を持っていたため、そのような研究をする企業に訪問したいと強く望んでいました。最初の分野希望調査では、自分と同じように自然科学系研究に興味を持っている人がたくさんいて、同じような考えを持っている同士の多くいた事に嬉しく思いました。私の班は他の班と比べて班員が少なく、5

人でした。それが、かえって意見がまとまりやすくすぐに全員の意見が一致しました。そんな私たちの班のテーマは「企業訪問を通して今自分に足りない所を見つけ、そこを補うために必要なことを探す」でした。

私たちの班は皆宇宙関係に興味があったため、まずはじめに東京大学理学部物理学科の教授を訪問したいと思っていました。しかし、時間の関係上訪問することができませんでした。そこで、なかなかアポイントメントをとるのが難しいと言われているJAXAに訪問したいと思いました。班長が私たちの班の訪れたいという思いを述べ、ついに訪問できるようになりました。

当日は遅れることなく調布にある航空宇宙センター（JAXA）にたどり着きました。私たちが閲覧させてもらったのは、施設を一般公開しているところでした。様々な航空機の大きな模型などが置かれていました。

初めに実際にJAXAがどのようなことをしているのかを知るためにある動画を見させていただきました。この動画は私にとって班のテーマである「必要なこと」を見つける大きな手掛かりになったと思います。

次に、実際に置かれている模型についての説明をしていただきました。まず、風洞というものを見せてもらいました。風洞とは、人工的に空気の流れを発生させ実際に空を飛ぶ時にしっかり飛べるかどうかを模型を使って再現するものです。JAXAには60cm×60cmの小さいものから6.5m×5.5mの大きなものまでありました。私たちが見たのは3m×2mくらいの少し大きめのものでした。その中に飛行機の羽の模型があり、自分で動かせるようになっていました。私たちにも実際に動かさせていただきました。風洞の中を流れる風の強さや羽の角度による力の向きを手で実際に感じる事が出来ました。また、風洞を用いずにコンピューターの計算によって力を求めるというものもありました。現在の技術の進化を感じさせられました。

次に、昔の飛行機の模型とJAXAの歴史について説明していただきました。JAXAは創立されたのは2003年ですが、それよりもずっと前に航空宇宙センターとして設立されていたそうです。日本の宇宙産業が活躍の場を世界へと広げていく過程を教えてくださいました。

以前飛行していたが、今は使われていない飛行機の頭の部分もを見せてもらいました。初期の飛行機で70人ほどの乗ることができ、昔はかなり活躍していた飛行機だったそうです。実際に中にも入らせていただきました。

操縦席を見ると、数えられないほどのボタンがあり、これをすべて使いこなすのかと思うと気が遠くなりそうでした。宇宙飛行士になるにはおよそ300倍の倍率を勝ち抜く必要があると言われていたのを聞いたことがあります。たしかにそれもそのとおりだと思いました。

宇宙シュミレーションというものも体験させていただきました。これは、将来飛行機で宇宙に行けるようになるということを実定して実際に飛行機の操縦を体験するというものでした。ひ

とつの暗い部屋のようなところに入ってレバーのようなものを操作しました。かなり本格的で、実際に飛行機に乗っているような気分でした。将来にはほんとにこのような世の中が来るのだろうかと思いながら体験していました。

これらの体験は非常に興味深く、時間が経つのも忘れてしまっていて、時間が少し過ぎてしまっていました。しかし、それを気づかないほどの面白さでした。そして、この体験を通して自分に足りないところは「夢を見ること、夢を追いかけること」だと思いました。それができるようにするためには、夢を見つける必要があるとおもいます。夢を見つけるためにたくさんのことを経験して、自分が一番やりたいと思える夢を探し続けていきたいと思っています。

